

都道府県名	徳島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鷲敷町立阿井小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	9
児童数	13	9	6	10	3	11	0	52	

研究の概要

1. 研究主題

児童が主体的に取り組む学習指導の工夫 — 伝え合う力を育てるための国語科における学習指導の工夫 —
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校であるので、全校で実施。 ・ 本校の児童の実態をみてみると、読む・書く・話す・聞くの国語的基礎学力が不十分であり、国語教育はあらゆる教科の基礎となるため。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 伝え合う力を育てるための国語科における学習指導の工夫 研究の見通し（仮説） 伝え合う力を育てるための基礎になる「話す・聞く、書く、読む」とこれらのもとになる「言語事項」の国語的基礎学力に重点をおいて取り組むことで、自分の考えを相手に伝える力が育つと考えられる。本年度は、最も基礎になると思われる「言語事項」、「読み」から取り組むことにした。</p> <p>研究の内容・方法 ア 児童の実態調査 子どもたちにどのような力をつけていかなければいけないかを探る。 イ 全校における指導の工夫 伝え合う力を育てるためのもとになる「語彙」を増やしていく工夫をする。 ウ 各学年における国語科を中心とした学習指導の工夫 ・ 学習形態の工夫をし、「わかる喜び」が得られるよう個別指導の工夫をする。 ・ 相手と目的意識を明確にした学習目標を設定し、「話す・聞く・書く・読む」の活動を展開する。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 伝え合う力の基礎・基本を身につけさせる国語科の指導の工夫 研究の見通し（仮説） 15年度の取り組みの評価をもとに、国語科の基礎になる「言語事項」、「読み」についてさらに指導を工夫していくとともに、「話す・聞く」「書く」についても個に応じた指導の工夫を図ることで、伝え合う力の基礎・基本が身につくと考えられる。</p> <p>研究の内容・方法 ・ 漢字を習得したり、語彙を増やしたりする指導の工夫・改善をする。 ・ 話す・聞く力、書く力、読む力を育てるために効果的な指導方法を考える。</p>
--------	--

- ・児童一人ひとりの実態に応じた適切な支援，評価のあり方について取り組む。
- ・家庭との連携を図った取り組みを行う。

(3) 研究推進体制

- ・研究テーマや実践方法について全教職員で共通理解をしながら話し合い，研究に取り組んでいる。そして，フロンティアティーチャーを中心とした学力向上フロンティア部会で提案協議したことをもとに，全教職員で話し合いを深め，軌道修正をしながら研究の推進を図っている。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 全校における指導の工夫
- ・漢字チャレンジ
各学年で学習する言語（ひらがな・カタカナ・漢字）についてドリル学習を行った。各学年10級の問題を作成し，高学年も1年からのドリルに取り組み，言語の定着が図られつつある。
 - ・朝の読書活動を行うことで，読む力が育ってきている。
 - ・朝夕の会や家庭学習で音読・暗唱を取り入れ，「語彙」を増やしつつある。

- 国語科を中心とした学習指導の工夫
- ・少人数学級の利点を生かし，特に一人で学習する過程における個別学習を工夫した。ヒントカードを活用するなどして，自分で課題を解決しようとする意欲が育ってきている。
 - ・教材によって，授業の中で自己評価や相互評価を取り入れることによって，自分を見つめ，級友のよさを学ぶ場となり，意欲的な活動ができた。また，学習環境に変化を持たせることもできるので，楽しく学習に取り組めた。

2. 今後の課題

ドリル学習として漢字チャレンジを実施したが，書き順などにも取り組まなければならないと感じた。また，今年は時間が十分取れなかったため，今後は，繰り返しできる時間の設定を考えていきたい。

言葉の学習は，音読や暗唱が最も効果的であるといわれているので，音読や暗唱の効果的な指導について探る。

少人数学級の利点を生かした指導の工夫をするために，個別指導のあり方や児童一人ひとりの実態に応じた適切な教材を探る。

児童が主体的に学ぶ力をつけるためには，児童一人ひとりの学習状況を的確に把握し，適切に指導するための評価のあり方についても今後取り組んでいきたい。

学力等把握のための学校としての取組

- * 定期的な学力調査の実施（年1回）1月（国語，算数）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- | |
|-------------------------------------|
| * 平成15年10月14日 那賀地区基礎学力定着化推進委員会で実践発表 |
| * 平成16年 2月12日 鷲敷町教育研究集会で実践発表 |

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無